

集中豪雨・洪水に備えて～地域の標高を知る～

資料-2

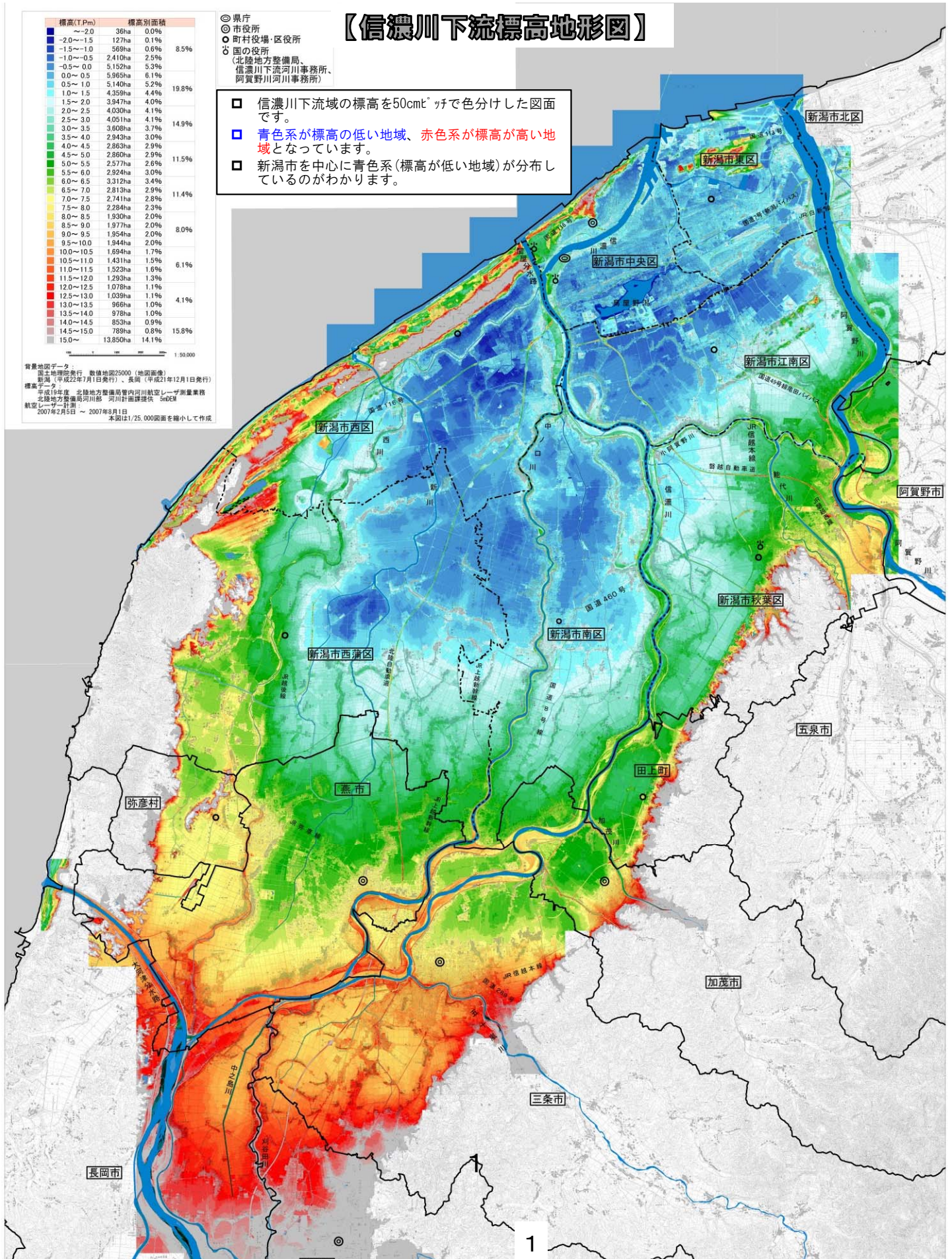
【信濃川下流標高地形図】

◎ 県庁
 ◎ 市役所
 ○ 町村役場・区役所
 ○ 国の役所
 (北陸地方整備局、
 信濃川下流河川事務所、
 阿賀野川河川事務所)

- 信濃川下流域の標高を50cm² ごとに色分けした図面です。
- 青色系が標高の低い地域、赤色系が標高が高い地域となっています。
- 新潟市を中心に青色系(標高が低い地域)が分布しているのがわかります。

標高(T.Pm)	標高別面積	
～-2.0	36ha	0.0%
-2.0～-1.5	127ha	0.1%
-1.5～-1.0	569ha	0.6%
-1.0～-0.5	2,410ha	2.5%
-0.5～0.0	5,152ha	5.3%
0.0～0.5	5,965ha	6.1%
0.5～1.0	5,140ha	5.2%
1.0～1.5	4,359ha	4.4%
1.5～2.0	3,947ha	4.0%
2.0～2.5	4,030ha	4.1%
2.5～3.0	4,051ha	4.1%
3.0～3.5	3,608ha	3.7%
3.5～4.0	2,943ha	3.0%
4.0～4.5	2,863ha	2.9%
4.5～5.0	2,860ha	2.9%
5.0～5.5	2,577ha	2.6%
5.5～6.0	2,924ha	3.0%
6.0～6.5	3,312ha	3.4%
6.5～7.0	2,813ha	2.9%
7.0～7.5	2,741ha	2.8%
7.5～8.0	2,284ha	2.3%
8.0～8.5	1,930ha	2.0%
8.5～9.0	1,977ha	2.0%
9.0～9.5	1,954ha	2.0%
9.5～10.0	1,944ha	2.0%
10.0～10.5	1,694ha	1.7%
10.5～11.0	1,431ha	1.5%
11.0～11.5	1,523ha	1.6%
11.5～12.0	1,293ha	1.3%
12.0～12.5	1,078ha	1.1%
12.5～13.0	1,039ha	1.1%
13.0～13.5	966ha	1.0%
13.5～14.0	978ha	1.0%
14.0～14.5	953ha	0.9%
14.5～15.0	789ha	0.8%
15.0～	13,850ha	14.1%

背景地図データ：
 国土院発行 数値地図25000 (地図画像)
 新潟 (平成22年7月1日発行)、長岡 (平成21年12月1日発行)
 標高データ：
 平成19年度 北陸地方整備局管内河川航空レーザ測量業務
 北陸地方整備局河川部 河川計画課提供 5mDEM
 航空レーザ計測
 2007年2月5日～2007年8月1日
 本図は1/25,000図面を縮小して作成



集中豪雨・洪水に備えて～地域の標高を知る～

【信濃川の旧三角州地域の地形分類図】

大河津分水路から下流約20kmの範囲には、信濃川の旧三角州が形成されています。この三角州はかつて海面が巻・白根付近まで及んでいた時代に河口部に作られた旧地形です。

地形は、吉田～月潟付近まで（高位三角州面）と曾根～巻～白根まで（低位三角州面）との2つの面に区分することができますが、2つの面の段差はわずかです。このような地形の差は海面の高さが変化したことにより作られたものと考えられます。

高位三角州面は円弧状の形をしています。低位三角州面は鳥嘴状（鳥のくちばしのように三角州の腕が伸びたもの）の形をしています。曾根や横戸などでは三角州の腕が半島のようにつきだし『鎧潟』を取り囲むように成長したようです。また、旧河道は樹枝状に細かく分岐して流れた様子がわかります。

